



東亞天文協會觀測部月報

黃道光課報告

淺野英之助

黃道光觀測上の問題——觀測事項の各項目の中、如何なるものに重點を置くべきかに就いて二三の古參者達の間にしきりに論ぜられてゐるのであるが、實際觀測に當つては

1. 全體の形

2. 明るさ

を先づ第一に見るべきである。(1)は即ち頂點及び南北の外形を正しく寫し取ることであつて、一般に困難なことではあるが、之れを最重要視することは茲に論ずるまでもないことである。(2)は最光輝部の明るさを銀河と比較し記入することで、之れに次で、他に比してかなり決定容易な明るさの中心線を定むべきであらう。以上を終つた後、順次、等光線の吟味、色、變動消長、光帶の有無等に及ばせばよい。しかし、各自に於て何れか一を撰擇して自己の研究課題とし、深く吟味調査されることは最も望ましいことである。例へば、笹部、佐野氏の異狀光帶、本田氏の等光線、の如く一層の努力を期待する。それにつけても下保、佐々木氏の光度計觀測及び坂元氏の寫眞觀測の其後は如何であらうか。

課としては、今後、適當な機會毎に適當な問題を取り上げて、それに全體の注意を向けてゆきたいと思つてゐる。

黃道光課は益々隆盛の途をたどりつゝ後半期を迎えることゝなつた。秋の盛觀を御期待あれ。

先づ、今回熱心なる同志の加はられたことを滿腔の喜びを以つて御報告申します。

京都市下京區四條通野村銀行支店內 宇 野 良 雄氏

同氏は、八月中十分に御勉強願つて、九月より 正式の觀測を初められる豫定である。次に、札幌の下保氏は今後積極的に課の爲めに御盡力下さることとなり、毎回本欄に何かと有益なニュース或は研究斷片等を載せられる筈になつた。深く感謝の意を表する次第である。

八月の狀況豫報

黃道光 西天——宵の觀測は1日——13日頃まで及び月末の二、三日間は可能である。蝎座が南中する頃で、銀河が頂點に迫つてくる。低空にはスピカと並んで木星が輝いてゐる。

比較銀河は C 即ち γ, β Cygni の間に擴つてゐる銀河。

東天——曉の觀測は8日——23日頃まで可能である。銀河は北から南へ流れ、黃道光の大部分を妨げる。金星が地平線近く現てゐるであらう。比較銀河は A 即ち Auriga の五角形中を流れる銀河。

對日照 上旬中旬は觀測可能であるが、土星が妨げとなる様である。未だ充分位置が高くないため觀測は困難であらう。

・ 4, 5, 6月の報告は次回へ。

彗 星 課

1934年の彗星界 今1934年中に近日點へ再歸する筈の彗星は下記の三つ

彗 星	近日點通過豫定	出 現	要 項
Wolf	2月 28日	第 7 回	{ 去1933年7月末發見さる 1933e 軌道甚だ不確 甚だ有望
Tuttle-Giacobini	3 21	第 3 回	
Encke	9 16	第 30 回	

Jeffers 星 5月9日、Jeffers 氏によつて發見された星については前月號に報じた通りであるが、其後のニュースによれば、此れは、一つの小遊星である事もわかつた。其の軌道要素は下記の通りである。

元期 1934, 5月 12.2066 U.T.		
平均 黃 經 $M = 39.960$	近日點 引 數 $\omega = 15.88$	{ (1934.0)
離 心 率 角 $\varphi = 13.13$	昇 交 點 黃 經 $\Omega = 137.80$	
平均日々運動角 $\mu = 1018.76$	軌道面傾斜角 $i = 1.57$	

Whipple 彗星 (1933f) の軌道要素 昨年發見された此の彗星の軌道要素に関

し、A. D. Maxwell 氏は、1933年10月15日より1934年3月5日迄の長期に渡る観測により、次の要素を導いた。

元期	1934年	1月	1.0	U.T.					
平均黄經	M	=	20°	9'	25".9	(1933.0)	離心率	e	= 0.349173
近日點引數	ω	=	190	15	26.9		平均日運動角	μ	= 472."902
昇交點黄經	Ω	=	188	34	8.6		半徑	a	= 3.832573
軌道面傾斜角	i	=	10	12	58.3		長周	P	= 7.503年

Encke彗星 今年歸來するエンケ彗星は、もう、そろそろ曉の天空に見える筈。其の豫報位置を B. A. A. Handbook より轉載した。

掩 蔽 課

本課が設置されてまだ日が浅いので、現在萬端内容の充實に務めてゐる。同好の士は遠慮なく入課を申出でられ、直接間接の援助を與へたい。本課の現状を略記しておく。

花山天文臺に於ける掩蔽観測計算者は主として、

公文 武彦 高城 武夫

の二名が専らこの仕事に當つてゐる。會員中よりの現在までの加入申込者は

高木 幸(香川) 荏部 進(神戸) 宮崎正男(三重)

の二名である。観測希望者は観測使用機、倍率、時計、等につき當課宛申出でられたい。尙一週間に一回の割で豫報を發表するから、必要數だけの葉書を宛名明記の上豫め送付さるれば、その都度豫報を通報する筈、(高城)

流 星 課 月 例 報 告

課長 小 槇 孝 二 郎

集つた観測は割合に少なかつた。一つは流星出現の最少期に當る爲であらうが、観測者の奮起を望んでやまない。二月には新しく下の二君から火球の報告を受けた。

松山市松山高等學校寄宿舎

山 本 進君

京都市川端通荒神口北

西 村 繁 次 郎君

一月月上旬の四分儀流星群は僅かに 東京市の稻垣君によつて観測されただけであつた。一月一日が満月に當つてゐた爲、観測期は月の邪魔で條件は甚だ

不都合であつた爲かも知れぬが、かくの如き著名な流星群は月明の如何を問はず、よし Seeing が悪くとも充分注意する必要がある。東京市中に於て悪天と戦はれつゝ觀測せられた稻垣君の勞を大いに謝したい。

同君の結果によれば2日及3日朝は、Factor による修正を考慮に入れても、5—6 個に過ぎなかつたが、翌4日朝は例年の通り極大を示し、90分間に13個 (Factor 修正による一時間平均数は17.3個) の四方儀流星群をみとめられてゐる。其他には著しい流星群はみとめられなかつた。

先日チエク國の V. Guth 氏から “Leonidy v Poslednich Letech” なる表題をもつ13頁に互る論文を贈られた。其の全文はチエク語なので何もわからぬが、最後につけてある英文の Summary によれば、昨年度のレオニズ觀測に際して國からの援助の下に飛行機上より觀測を行つたとの痛快な事がのせてある。一寸珍らしいと思つたので紹介する。(Bureau Central des Télégrammes Astronomiques, Circulaire No. 466参照)

變 光 星 課 報 告 (17)

小 山 秋 雄

六 月 中 觀 測 數

星 名	今 津 (吹田)	木 邊 (滋賀)	笹 部 (池田)	加 藤 (大阪)	沓 掛 (長野)	金 田 (京都)	木 下 (愛媛)	勝 浦 (南米)
I Carinae	—	—	—	—	—	—	—	12
T Centauri	—	—	—	—	5	—	—	—
R Coronae	9	—	—	10	—	—	6	—
W Cygni	—	—	—	—	—	—	4	—
R Hydrae	8	—	7	9	4	4	6	—
V Hydrae	1	—	—	1	—	—	—	—
R Leonis	2	—	—	—	2	—	—	—
R Leonis Minoris	—	3	—	—	—	—	—	—
V Ophiuchi	4	—	—	—	—	—	—	—
RS Ophiuchi	—	1	—	—	2	—	—	—
R Scuti	1	—	—	—	—	—	—	—
N Velorum	—	—	—	—	—	—	—	12
R Virginis	4	—	—	—	3	—	—	—
合 計	29	4	7	20	16	4	16	24

▲特記すべきは太陽、流星、黃道光で活躍せられてゐる南米支部の勝浦茂雄氏の I Carinae, N Velorum の觀測である。現在では肉眼で行つてゐられるが、比較的觀測者の少ない南天の星をひかへて、輝しい將來を持つてゐる。

▲季候もよいからぎよしや、うし、オリオン座の星の早朝觀測をおすすめする。ペルセウス流星群と共に觀られるのもよいだらう。

太陽課 黑點相對數報告 (1934年六月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	山田(山口縣小郡町)	日野(愛媛縣新居郡)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	井澤(大阪府岡中學)	北村(大阪府外布施)	前田(京都市下京區)	龜井(花山天文臺)	木邊(滋賀縣中里村)	三澤(長野縣上諏訪)	沓掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣島田町)	森久保(橫濱市中區)	淺居(橫濱保土谷區)	水谷(東京市本郷區)	稻垣(東京市芝區)	山根(東京市澁谷區)	千葉(岩手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)
鏡徑耗	50	75	98	150	75	36	110	50	70	55	73	73	102	100	35	27	38	75	44	50	58
倍率	40	48	69	68	77	55	92	62	40	64	60	83	75	73	50	50	50	30	43	50	44
1	0	旅	曇	0	0	忙		0	0	0	雨	0	0	忙	0	0	0	0	曇	0	0
2	0	旅	欠	0	0	雨		曇	0	欠	雨	0	曇	曇	0	曇	雨	曇	雨	0	0
3	0	旅	0	0	0	0		曇	0	0	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	旅	0	0	0	0		曇	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	旅	0	0	0	0		曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	旅	0	0	0	0		曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	旅	0	0	0	0		曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	11		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	曇	0	曇	0	0	0		0	0	欠	0	0	0	忙	0	0	0	0	0	0	0
11	0	曇	曇	曇	0	0		曇	0	欠	0	0	0	0	曇	曇	忙	曇	0	0	0
12	0	雨	雨	曇	0	忙		曇	0	0	曇	0	0	0	曇	曇	曇	曇	0	曇	0
13	0	0	曇	曇	0	0		曇	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0	曇	0	0
14	0	曇	曇	曇	0	0		曇	0	0	雨	0	0	0	0	0	曇	曇	曇	0	0
15	11	12	14	14	11	17		11	11	11	12	11	11	11	11	11	11	13	13	11	16
16	15	17	15	14	11	35		11	11	11	26	32	33	31	28	14	29	18	32	曇	17
17	雨	36	15	13	雨	22		13	15	16	29	16	37	26	13	12	31	16	30	曇	30
18	曇	46	15	13	欠	40		14	15	16	29	29	33	36	29	15	16	28	15	17	17
19	雨	曇	12	雨	曇	雨		13	15	16	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	30
20	雨	雨	11	雨	曇	14		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	15
21	雨	16	11	雨	曇	14		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	15
22	11	15	11	雨	曇	11		11	11	17	17	17	18	18	11	11	13	15	17	15	19
23	11	24	11	14	12	12		11	11	12	14	15	14	15	11	11	12	13	13	13	欠
24	11	曇	雨	曇	曇	雨		曇	雨	雨	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11
25	11	11	11	曇	曇	11		曇	雨	雨	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11
26	11	11	11	曇	曇	11		曇	雨	雨	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11
27	11	0	11	0	0	0		0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28	0	0	0	0	0	0		0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0
29	0	0	0	0	0	11		0	0	0	0	0	曇	0	0	欠	0	0	0	曇	0
30	0	0	0	0	0	0		曇	0	0	0	0	0	0	0	欠	曇	旅	雨	曇	0
平均	4	11	6	2	6	7		5	5	7	7	7	7	5	5	6	8	5	8	4	6
日數	24	17	19	19	24	18		17	25	18	19	27	23	19	21	16	16	19	23	17	28

●訂正 前號本欄の報告が(1934年六月)となつてゐるが、之は五月の誤りにつき訂正す。●花山ブレテンの太陽黒點報告欄が第281號から一變した。よく見て頂きたい。大正14年以來一定の型式に出來てゐたものが、改善充實されたのである。之れも全く時代の勢である。